

発行所

真宗大谷派 光善寺

発行人 太田高顕

茨木市島2丁目3-16

電話 072(632)7107

http://www.eonet.ne.jp/~kouzenji

いぶき

2018年3月発行

今月の言葉

ま 時 け よ 時 け

ほ と け た ね 仏 の 種 も

ひ が ん 彼岸 から

蓮師会・永代経厳修

三月十八日に

光善寺では、恒例の蓮師会ならびに

永代経を三月十八日にお勤めします。

蓮師会は、当山の開祖蓮如上人を讃嘆す

る法要です。永代経は、ご先祖の苦勞を

偲びご恩を喜ぶと共に、私たちが教えに

耳を傾ける大事な機縁であります。講師

には、秦 成淳氏（松原市善長寺住職）

をお迎えします。彼岸の一日、ぜひとも

お参りください。

蓮師会・永代経

三月十八日（日）

午後二時・午後七時

お勤めと法話があります

法話 秦 成淳氏

はた じょうじゆん

（松原市・善長寺住職）

初めてのご出講です。とてもわかりやすくお話くださる先生です。

蓮如上人のご教化と教え

近畿一円の教化の拠点に

蓮如上人は文明七（一四七五）年八月、北陸吉崎を退去され若狭から丹波路を

経て、富田へおいでになります。やがて

淀川を渡って出口に移られます。出口坊

は上人の弟子、石見光善という方の努力

によって建てられたことから、後に光善

寺と称せられることになりました。

上人は出口を拠点にして、摂津（島・

光善寺も）、河内、大和を絶えず経巡り、

坊舎を建立し、教えを広めるため席の暖

まる暇もなかったのです。

十四世紀後半から、農民を中心に惣村

という自治の共同体が生まれてきます。

蓮如上人は摂津、河内、泉州、堺、大和

で、まず惣村の指導者を教化されます。

指導者たちはそれぞれの惣の中に真宗

の道場をつくり、真宗門徒が続々と生ま

れていきます。こうした方法で、門徒が

中心になって道場ができ、それが寺へと

発展していったのです。

「正信偈」、「和讃」、「御文」を門徒の

お勤めと定められたのも蓮如上人です。また、お講をつくられ毎月を決まった日に寄合をして、信心の体験を話し合うことをすすめられます。門徒は「御同朋、御同行」と親しく接しられました。

如来よりの賜わりもの

上人は、廊下に紙切れが落ちていたのを拾い上げ両手におしただき、これも仏法領だから、粗末にはいけないと一同をたしなめられます。

つまり、一切のものが仏さまのものであるという観念であって、装束も、食事、一口の水も、門徒からの進上物も、仕事すら、「如来より賜わったもの」であって、私の所有物ではないとの見方があります。すべての人々はもとより、あらゆる事物でさえも同じ尊さのいのちをもっていることを教えられたのです。

このように、仏法の教えを大事にして生きることが肝心なことであり、このことが仏恩報謝になるのだと、八十五年の生涯をかけてご教化されたのが蓮如上人であります。